

多摩川上流圏域河川整備計画（原案）への関係住民からの意見と対応

整理番号	意見・提案	基本的な考え方
1	P29に示されている流量配分図について、「小河内ダム」や「白丸ダム」には「ハッ場ダム」のような洪水抑制機能はあるのか。また、将来、多摩川で洪水を抑制するダムの計画、構想が東京都であるか。	「小河内ダム」及び「白丸調整池ダム」に洪水抑制機能はなく、流量配分図を含む本整備計画はそれを前提に策定されています。 また、都としては、多摩川においてダムの計画・構想はございません。
2	多摩川は清流の名を失っている。原因は日原川からの汚泥流出のためである。この汚濁水の流出防止対策として、日原川と多摩川の合流点付近に汚濁水自動計測装置を設置してほしい。	水の濁りについては、河川管理者のみによる対応は困難です。 このため、P29、31に記載のとおり、地元市町など関係機関等と連携を図りながら水質の現況把握、保全に努めていきたいと考えています。
3	多摩川上流には駐車場が少なく、さらに河川への降り口の標識が全くない。是非、設置してもらいたい。	河川管理者が駐車場を整備することは困難ですが、河川利用を促進する水辺へのアクセスの向上については、地元市町や関係機関と連携し、検討していきたいと考えています。
4	上流地域の遊歩道を整備してもらいたい。	P30に記載のとおり、川沿いの遊歩道整備については、地元自治体や関係機関と連携し、検討していきたいと考えています。
5	白丸ダムを撤去してもらいたい。	ご要望は所管部局にお伝えいたします。
6	多摩川は大雨が降ると白濁が続く、また上流からの土砂流出が川床を埋めてしまい魚や水棲生物などの生息が難しい状況に成りつつあると思う。昔のような清流を取り戻してもらいたい。	水の濁りや土砂流出については、河川管理者のみによる対応は困難です。 このため、P29、31に記載のとおり、地元市町など関係機関等と連携を図りながら水質の現況把握、保全に努めていきたいと考えています。
7	観光放流は1日の中でも、水量及び水面の上下が大きく変化し生物や魚などが住みづらい。また、川辺での遊び不安があるため、放水を中止してもらいたい。	観光放流については、地元自治体等からの要望に基づき、河川景観の確保などを目的として実施されているものであり、その流量は発電などを実施しない場合に多摩川を流れる流量の範囲内で設定されています。 また、放水を中止した場合は、河川流量が少なくなり、生物の生息環境は悪化する可能性があると考えられます。 このため、観光放流については実施を継続することが望ましいと考えます。
8	白丸ダムの役割は既に終わったと思う。清流を取り戻すためダムを撤去してはどうか。	要望は所管部局にお伝えいたします。
9	治水と環境に重点を置いてほしい。電力供給や水源としての役割は既存施設や利根川水系との協力で補完的な部分としても考えることが可能であるが、治水と環境については多摩川上流住民のみならず、都民や観光客が直接的な影響を受けることから今後とも十分な配慮をいただきたい。	P31に記載のとおり、今後とも適切に維持管理を実施し、治水機能の確保、環境の保全を図っていききたいと考えています。 なお、多摩川は東京都内における主要な水源の1つであり、多摩川で不足する水を利根川水系などに求めている状況にあります。
10	第2章第2節「流水の正常な機能の維持に関する事項」について、生態系の維持、特に河川に棲む水生昆虫や魚類の安定生息を考えると白丸ダムなどの放水について昼夜を問わず安定した流量が望まれるので検討願いたい。	P31に記載のとおり、生物の生息・生育環境の調査を行うとともに、白丸調整池ダム管理者など関係機関と連携を図りながら、水量の確保に努めていきたいと考えています。
11	第2章第3節「河川環境の整備と保全に関する事項」について、東京湾からの天然鮎の遡上がこの10数年復活しているが、再度、現存する魚道の整備、堰周辺の浚渫作業をお願いしたい。羽村取水堰の魚道に十分な水が流れるような工夫が必要。川井堰は魚道が本当に機能しているのか？崩れたままの堰は見た目も悪い。調査・整備をお願いしたい。	魚道等については、堆積土砂の撤去など適正な維持管理を行っていききたいと考えています。 なお、羽村堰は国管理区間に位置している堰であり、ご要望は羽村堰の魚道管理者に申し伝えます。 また、川井堰については関係機関と調整を図りつつ、対応を検討してまいります。